

伝え合う力を育むためのメディア活用

ー中学国語にちょこっとITー

山形県米沢市立南原中学校 教諭 金 隆 子

子ども達を取り巻くメディア環境が年々多様化している。国語の教科書も「伝え合う力」の育成をキーワードに、読み取り中心の学習から伝え合う活動を大切に編成になり、文章の読解にかかる時間が削減された中で、ことばの力が高まる活動をいかに組み込んでいくかが国語科の課題となっている。そこで、「伝え合う力」を育む手だてとして、交流学习をからめながら伝える相手を意識させる場を授業の中に組み込むことを試みてきた。このことから、従来の作文や感想文などの紙ベースの伝え合いからメディアを活用した伝え合いに広がり、メディアを活用することで「自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面に応じて適切に表現する能力、目的に応じた確に読み取る能力や読書に親しむ能力」という国語の目標に効率よく近づくことができる手応えを感じている。

1. 生徒の実態と指導課題

小学校から小さな集団で生活していることもあって、自己主張することや互いに高まろうとする意欲がうすく、大事な場面で力が発揮できない傾向がある。学習においても自分の頭で考えて表現したり、話し合いで練り合う力もまだ不十分で書く力も弱い。これらの実態を受けて、国語科の切り口としてITを活用し知的好奇心を引き出しながら、表現力・思考力を身につけさせる指導法を探り、生活の中で生きて働く力につなげていきたいと考えている。

2. 実践から

まず場の設定から～目的意識と相手意識～

学ぶ意欲を持たせるためには、「話す・聞く」「書く」「読む」の各領域に学びの必然性を与えることが必要だと思う。話したくなる場、聞きたくなる場、書きたくなる場、読みたくなる場が提供できれば、自ずと子ども達の目は輝いて学習に取り組む。なんのために誰に向かって、話し、聞き、書き、読むのかを明確に示すことは、ことばを見つめ磨いていく上でも重要なポイントになる。昨年度はポーランドの日本文化クラブの子ども達、そして今年度は浜松の中学校との交流で、教科書の単元構成に従って無理なく「ちょこっとIT」を取り入れてみた。



○今年度の2学年での実践（教科書は5単元構成）

（1）1単元「春を伝える～春を届ける～」

◎指導目標

- ①米沢から浜松への「春のたよりづくり」に積極的に参加する態度を養う。 【関心・意欲・態度】
- ②企画会議や作品づくりの中で目的に沿って自分の考えを述べたり仲間の発言を聞いたりさせる。 【話す・聞く】
- ③集めた資料を整理し、企画書としてまとめさせる。 【書く】
- ④企画書づくりや編集のためのことばの吟味を通して、目的・内容によってまとめ方や展開に違いがあることを理解させる。 【言語】

◎学習計画（全6時間）

時数	内 容
1	・届ける相手を提示し、相手の状況をだまかに捉える。 *相手校からの画像提示（プロジェクター） ・伝えたい「米沢の春」を考えグループ毎にテーマを決める。
1	・テーマに沿って情報収集を行う。 *インターネット検索（PC）
2	・「メディアを学ぼう 企画をたてる」を視聴する。 *（プロジェクター・ビデオ） ・役割分担を決め、企画会議を開き企画書を作成する。・グループと全体でミニプレゼンを行う。
1	・企画書に従って情報収集、撮影を行う。 *資料撮影（デジタルカメラ）
1	・内容を精選しながら編集する。 *ムービーメーカーを使い編集（PC）

◎学習のポイント

- ①相手意識を持つ 浜松から届いたデジタル画像から米沢との違いを確認。相手校と浜松市のホームページを開き、学校生活や観光名所・特産物等の情報収集で相手の状況をつかむ。
- ②地域を見つめる イメージマップを作成し「米沢の春」をふくらませ地域の春を見つめる。テーマの絞り込み。
・米沢らしさを伝えるテーマ例「クリーン作戦」「上杉祭り」「自転車通学」「山菜」「雪解け」
- ③企画を学ぶ 番組を試聴し伝えたいことを整理し相手にわかりやすく伝えるための企画書の書き方を学ぶ。
下調べや受け手の立場を考えることの大切さをおさえる。
- ④ゴールをつかむ 1分程度でまとめること、デジタルカメラで撮影しムービーメーカーで編集することを知る。
・イメージを持たせるため、自作のサンプル映像（5秒×14枚）と企画書を提示。
- ⑤企画書作成 タイトル（テーマのキャッチコピー）ねらい（伝えたいこと）内容（ねらいを伝えるために必

要な場面) を考え、企画書を作成する。

- ⑥ミニプレゼン 班内プレゼンで優秀作1点選出。その企画書をもとに練り合い、班としての企画書を作成する。
・タイトル例「心もキレイに春の仕事！クリーン作戦」「春の第一歩～雪解け～」
- ⑦評価 企画をアピールする話し方を意識し発表する。
・ここでは中身の評価を第一とした。タイトル(惹きつけることばになっているか)ねらい(伝えたい思いがわかるか)内容(ねらいを伝えるのに十分か)
- ⑧撮影 企画書の内容を確認し、デジタルカメラで撮影。撮影の仕方はプロに学ぶ。
- ⑨編集 デジタル画像を貼り付け、電子紙芝居を作成する。画像を補うことばも加える。

(2) 5単元「町の物語を探る～インタビューで取材する～」

◎指導目標

- ①地域への関心や親近感を抱き、インタビューや作品づくりへの意欲を持たせる。 【関心・意欲・態度】
- ②目的や場面に応じた話し方聞き方を学ぶと共に、情報収集・選択・活用力を身につけさせる。 【話す・聞く】
- ③取材を通して得た多様な情報を再構成し、形式方法を工夫してまとめさせる。 【書く】
- ④インタビューをもとに掘り起こした物語を読み、取材の仕方を捉えさせる。 【読む】
- ⑤表現しようとする内容にふさわしい語句を選んだり、相手にわかりやすい表現を工夫させる。 【言語】

◎学習計画(全10時間)

時数	内 容
1	・南原を支える名人を掘り起こす。グループ毎マップを作成し付箋を張り込んだ中から一人を絞る。
1	・「物語が走る」を読み今後の活動に必要な要素(準備・調査・まとめの手順)を確認する。
1	・インタビューをプロに学ぶ。 *サンプル映像の提示(プロジェクター・ビデオ)
1	・「メディアを学ぼう 情報を集める・情報を編集する」を視聴する。 *(プロジェクター・ビデオ)
2	・一人に絞ったインタビュー番組を視聴し、構成を考える。 *(プロジェクター・CD) ・担当テーマについて下調べをする。 *インターネット検索(PC)等
1	・企画をたてる。その人らしさを表現するために必要な場面を考え、インタビュー項目を書き出す。
1	・インタビューを行う。企画に沿った情報を収集する。 *資料撮影(デジタルカメラ)
2	・内容を精選しながら編集する。 *ムービーメーカーを使い編集(PC)

◎学習のポイント

- ①地域の人を見つめる 地域マップに南原を支える人々を付箋で張り込みながら、インタビューする人を決定する。
・選んだ人の例「一刀彫の名人」「野菜作りの名人」「米沢牛を育てる名人」「昔話を伝える人」
- ②教材の読解 インタビューから文章にまとめる過程を読み取り、学習の手順を理解する。
- ③インタビューを学ぶ アナウンサーから取材の仕方を学ぶ。あいさつの仕方や言葉遣い等のマナーに加え、意図して聞きたいこと引き出すためのコツも学ぶ。インタビューの練習を行う。
- ④ゴールをつかむ 3分程度でまとめること。今回は、必要に応じて動画も可とすることを知る。
・静止画のみと静止画+動画の組み合わせをサンプルとして提示。
- ⑤番組視聴 今後の活動に必要なエキスを番組から学び、見直しを持つ。
- ⑥構成を考える 一人に絞った番組を視聴し、番組のねらいや構成をつかみグループで話し合いながら確認する。
- ⑦下調べ 聞きたいことを絞り、いいインタビューをするために下調べを行う。インターネット・書籍パンフレット等から必要に応じて収集する。
- ⑧企画書を書く 最も伝えたいことを確認する。ねらいの絞り込みと撮影画面の構成も考え絵コンテを作成する。
- ⑨インタビュー ねらいを深めるインタビューを行う。役割分担に従って、撮影・記録も行う。
- ⑩編集 効果的な組み立てについて話し合い意図をもって再編集する。効果的な文字や音声も考える。
- ⑪評価 インタビューした方と交流相手に、伝えたいことが伝わったか評価をもらい振り返る。

3. 成果と課題

最も伝えたいことを吟味して組み立てを考え、撮影して作品を作る活動を通して、必要に迫られて情報やことばの吟味を行わなければならない、実践的なことばの学習になった。また、生徒達は言語によって映像に意味を持たせること、自分たちの作品を作ることで批判的思考を持つことなど、情報発信の立場でメディアを活用した表現には様々な学びがあることにも気づいた。ITの活用も学びの流れの中で自然に授業におり込む形をとれたことで、意欲を継続させながら、映像・音声そしてことばの持つ意味を学び、よりよく伝える方法をつかむことができた。

「伝え合う力」を高めるためには誰に話すのか、聞くのか、書くのか、なんのために調べるのかまとめるのか伝えるのかという、相手や目的意識を指導過程に位置づけ、言語活動の具現化を工夫していくことが大切だと思っている。

ITを使用し活用する能力も今後ますます要求されるものと思う。相手に伝える道具としての有効性を感じている生徒と共にスキルを高め、国語科の学びの中で無理なく活用できる授業づくりを目指したい。評価も課題である。

